

歩み編さんだより

令和6年9月

Vol.22

『和泊町の歩み』編さん事務局発行

「和泊町の歩み」刊行報告会 が開催されました！



「和泊町の歩み」刊行報告会が令和6年9月1日（日）、和泊中あかね文化ホールを会場に開かれました。自然部会、歴史部会、町制施行後の和泊町部会の3部会に分かれてトークセッションを行い、「歩み」の意義や展望について意見を交わしました。会場ロビーでは、「歩み」に収録された後蘭孫八城跡現況測量図、古地図「沖永良部島全図」（県立図書館所蔵）、写真展もありました。今号から2回に分けて、報告会の様子を紹介します。

自然部会：トークテーマ「エラブの豊かさ、再認識」

司会者（下）：宗武彦氏
（昆虫・陸産貝担当、和泊町文化財保護審議
会会長）



登壇者（左から）：▽新城竜一氏（地質担当、琉球大学・総合地球環境学研究所教授）▽新納忠人氏（植物担当、知名町文化財保護審議会委員）▽本村浩之氏（魚類担当、鹿児島大学総合研究博物館館長・教授）

沖永良部島の豊かさについて新城氏は「特に琉球石灰岩の種類が豊富」、新納氏は「ヤエヤマハマナツメなど貴重な植物が見られる」、本村氏は「海水魚では新種・日本初確認の種などがあり豊か」と指摘。一方、課題では、新納氏はモクマオウやアカギなど外来種対策、本村氏も陸地で広がるサザンプラティフィッシュなど淡水外来魚対策と、遺伝子的に貴重なタイワンキンギョ(闘魚)の保護対策を訴えました。新城氏は児童生徒向けの副読本作成や専門家を招いたフィールドワーク、ICTを活用した観光地での情報提供など、教育や観光分野で「歩み」の知見を利活用することを提案しました。



歴史部会：トークテーマ「エラブ研究40年の進展と課題」

登壇者(左から)：▽北野堪重郎氏(考古学編通史担当、町教委)▽先田光演氏(中世編通史担当、和泊町の歩み編さん事務局・執筆編集員)▽皆村武一氏(近現代編担当、鹿児島大学名誉教授)



司会者：伊地知裕仁氏
(近世編担当、歴史民俗資料館)



北野氏は考古学分野の調査研究の発展により、かなり古い時代から島外と活発な交流を行っていたエラブ人たちの姿が見えてくると紹介。今後は知名町と進める古墓調査などを通じ、さらにエラブの歴史解明に取り組むとしました。先田氏は、エラブの中世期については古文書等の資料が少なく、地元の豪族伝説や沖縄の古謡集「おもろさうし」などを総合的に研究する必要があると指摘しました。また皆村氏は、本土地域と比べて特に貧困を強いられたエラブ・奄美の歴史に触れ、それに対する問いが自身の経済学研究の基礎となったと振り返りました。

考古学編執筆者の新里貴之氏(沖縄国際大准教授)と新里亮人氏(熊本大准教授)はともに研究活動のため、中世編執筆者の原田信之氏(新見公立大教授)と仲原弘哲氏(今帰仁村歴史文化センター元館長)は台風による交通の乱れにより、当日欠席されたことをご報告します。



『和泊町の歩み』編さん室
〒891-9112
大島郡和泊町和泊591番地
町立図書館 1階 郷土資料室内
TEL: 0997-92-3690 (直通)
担当: 甲恵子 市來美穂